

響く、若き弁士たちの熱弁

～第50回にかほ市少年弁論大会～



中学生らしい率直な意見が、聞く人を惹き付けた

11月14日、にかほ市少年弁論大会が象潟中学校を会場に開催され、市内3つの中学校から9人の弁士が出場し、「防犯」「防火・防災」「交通」のテーマで、自らの思いを5分の持ち時間でスピーチしました。

大会が始まると弁士たちは、挨拶をすることが防犯に繋がるといった意見や、火災の危険は身近なところに存在しているといった体験談などを、身ぶり手ぶりを交えながら熱弁を振りました。また、聴衆も弁士の言葉に静かに耳を傾け、共感した面持ちで頷く様子も多く見られました。

プロ顔負けの表現力

～オリジナル愛国会・発表会～

11月16日、歌や演奏などを愛する市民らで構成される「オリジナル愛国会」の発表会が仁賀保勤労青少年ホームにて行われました。披露された曲のほとんどがオリジナル曲でありながら、どこか懐かしい曲調に聴衆約350人が酔いしれました。

歌い手らは、同会員の生演奏をバックに計28曲を熱唱。小学生からベテランまでが次々に自慢の喉を披露し、中には女装で会場を沸かす歌い手も。

歌に踊りに生演奏にと、そのプロ顔負けの表現力に会場からは絶えず、大きな拍手が送られていました。



生演奏、女装、ミラーボール。情緒豊か…

市民と一緒に協働のまちづくり

～平成25年度にかほ市行政懇談会～



自治会と行政の活発な意見交換が行われました

11月19日、象潟公民館で行政懇談会が開催され、地区の自治会長ら88人と、市側から市長と副市長、教育長ら18人が出席しました。懇談会は協働のまちづくりのため、春は3地域毎に、秋は合同で行われます。

各担当部長が今後の主要施策事業を説明し、また、事前に提出された各地区の要望や質問事項について返答しました。最後には、「空き家になっている危険家屋に対して、市ではどのような対応を行っているのか」「自治会が利用できる助成制度について」など活発な意見交換が行われました。



経済情勢の動向を読み解くために

情報収集と市場開拓を積極的に

～産業振興講話会～

11月5日、市工業振興会主催による講演会が、ホテルエクセルキクスイを会場に行われ、同会の会員ら約100名が聴講しました。

講師の山口義行氏（立教大学経済学部教授）は「自社の強みを把握し、柔軟な事業経営コンセプトを明確にすることが市場開拓のスタートになる。経営者には常に『問う力』が必要。それがなくなったら経営者の資格は無い」と力説。また「そのためには積極的に情報収集しなければならない」と述べ、その3点についての必要性を訴えました。

地域力の底力を見た

～地域振興交付金事業～

市民有志で組織する団体等が、地域を元気づける活動を支援する制度「地域振興交付金」を活用したイベントが11月9日、10日に市内2会場で行われました。

9日はいんない祭り2013と題した郷土芸能発表会が院内小学校を会場に行われました。10日は、上浜地域秋祭りが象潟都市農村交流センターを会場に行われ、地域の児童などが民謡に合わせて躍りを披露するなどしました。どちらの会場も、子どもからお年寄りまで幅広い世代の参加が見られ、会場には多くの笑顔が溢れていました。



躍動感溢れる郷土芸能や子供達の躍りが披露された

ご当地調味料「地域ブランド」化を目指し

～鱈しよっつるを使った料理・商品試食会～



鱈しよっつるの特徴を活かしたメニューが並ぶ

金浦公民館で11月11日、市商工会主催による「鱈しよっつるを使った料理・商品試食会」が行われ、商品取組事業者など関係者ら約50人が出席しました。

市の魚「鱈」を使った「鱈しよっつる」で市独自ブランドを醸成しようと、市内飲食店など11業者が考案した12品目のメニューが展示されました。鱈しよっつるの「旨味が強い」「臭みがない」「風味がよい」などの特徴を活かした、和食や洋食、中華など幅広いジャンルの料理と、どらやきやせんべいなどのお菓子が試食テーブルに並び、利用範囲の広さをPRしました。